

氏名：魏 嘉
学籍番号：1319904

知覚のギャップ 感覚のズレ

Fuzzy screen + Sound gap

2022東京藝術大学大学院美術研究科
博士後期課程学位論文

[論文要旨]

本研究は聴覚障害者として筆者自身の経験と知覚のギャップ、感覚（主に聴覚）のズレについて考察していくものである。

重度の聴覚障害者である筆者は、聴覚障害があることを忘れてしまうほど、健聴者と同じ感覚意識で物事を見たり感じながら生活している。見方を変えれば、これは健聴者に対して稀有な統合力と想像力とをもって生活をしているとも言える。

映画やテレビ番組、映像作品を字幕なしで見るのは、筆者にとってパントマイムを見ているようなものである。字幕がないと会話の内容がはっきり聞こえないので、映像の内容やプロットを理解することができず、会話の前後関係から内容を類推することを余儀なくされる。論理や想像力だけでなく、受け取った映像を頼りに因果関係を判断しなければならないことが多く、そこに面白い矛盾や感覚の違いが生じることが少なくなる、これは一般の健聴者には理解しにくい面白い感覚であることに気づいた。聞き間違えた言葉と、字幕なしの映像を見て感じたこと、この感覚をどのように再現するかを制作と合わせて考察していく。

本論文は、以下構成から成る。以下のキーワードを一つ一つ紹介し、自分の経験や論点を結びつけ、作品コンセプトの要素として発展させていく。

hearing loss / 聴覚障害

McGurk effect / マガーク効果

subtitle / 字幕

lip reading / 読唇術

hearing aid / 補聴器

snow noise / スノーノイズ

video & sound / ビデオ & サウンド

auditory illusion / 錯聴

conversation by writing / 筆談

communication / コミュニケーション

guaranteeing information accessibility for the disabled / 情報保障

聴覚障害についての考察、紹介。音声言語を獲得する事の難しさ、生理的、心理的、個人的な経験について述べる。聴覚障害者の周囲からの音声情報の取り入れ方について考察する。コミュニケーション方法（口読み、筆談など）について述べる。聴覚障害者にとってやりきれないのは、聞こえないことそのものより、話が通じないと相手にやっかいな人間だと思われ、コミュニケーションが閉ざされてしまうことであるが、この点について述べる。

McGurk effect（マガーク効果）から、感覚（視覚、聴覚、内的論理的判断など）で受け取ったメッセージと、その発信源の正しさの違いを考察する。「視覚」と「聴覚」のズレから生まれる感覚について触れ、聴覚障害が抱えている思考回路や情報処理の仕方が健聴者とは異なることについて考察する。このリサーチの過程のなかで、情報受信のズレの過程及びズレの性質に重点が置かれている。

「視覚」と「聴覚」のズレから生まれる感覚の再現について考察する。聴覚的な受信の困難さや情報の受信の不連続性をビジュアル（ミックスメディア及び映像）による具現化する可能性やリサーチの過程について考察する。文字がなくても、場合によってはメッセージ全体を受信することが困難であったり、誤りがあったり、似たような部分が重なっていたりする（聴覚的受信不連続性）ことについて述べる。

次に、視覚的には内容全体を見たりすることが困難であったりする（視覚的部分不連続性）、異なる2つのテーマを同じ平面上に重ねて配置し、一方的にメッセージを受け取った後、個人的な体験や想像から推理される内容をレイヤーによる作りなどの制作手法を試みることにについて述べる。

「知覚のギャップ、感覚のズレ」が作品にもたらす影響について述べる。これまでの考察を踏まえ提出作品シリーズ「fuzzy screen」について解説する。「知覚のギャップ、感覚のズレ」の関わりについてまとめ、新たな表現への可能性となることを確認する。

終章では、本論文のまとめや研究成果の検討と今後の制作展望について述べる。